

大芝高原将来ビジョン（素案）

2022 年 月

南 箕 輪 村

目 次

はじめに

大芝高原いやしの森 いつもいつまでも 村 長 藤 城 栄 文 ……2

コンセプト

大芝高原いやしの森 いつもいつまでも ……………3

ゾーニング ……………5～11

センターゾーン

グリーンゾーン

レクリエーションゾーン

アウトドアゾーン

スポーツゾーン

モリゾーン

大芝の森の 130 年と 50 年の森林づくりへ ……………12～14

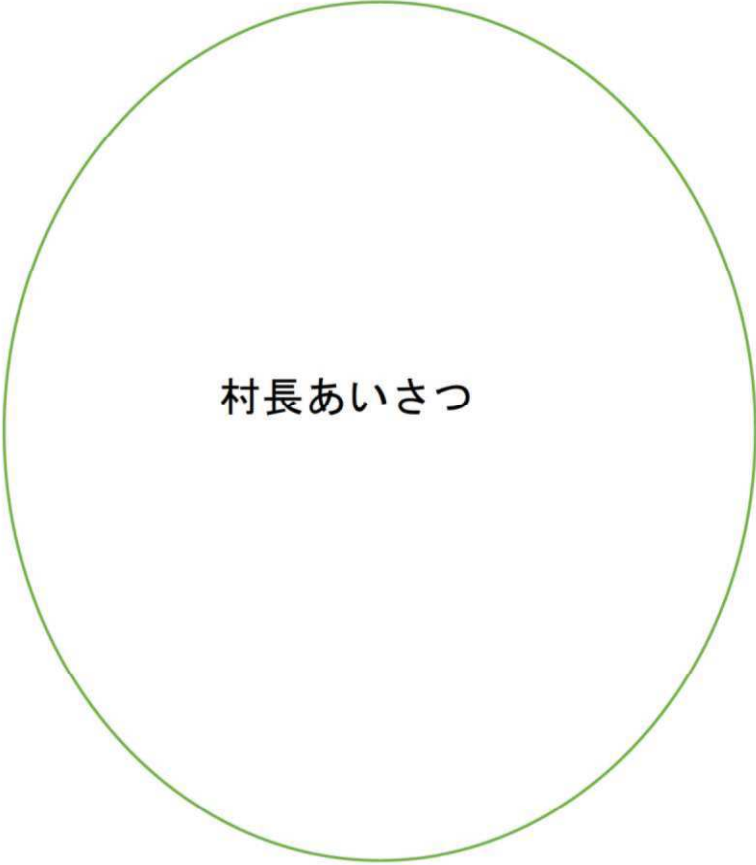
大芝高原の駐車場とトイレ ……………15

参考資料

アンケート抜粋

あつまれ大芝の森コンテスト応募作品

大芝高原 いやしの森 いつもいつまでも



村長あいさつ

2022 年 月

南箕輪村長 藤 城 栄 文

コンセプト 大芝高原

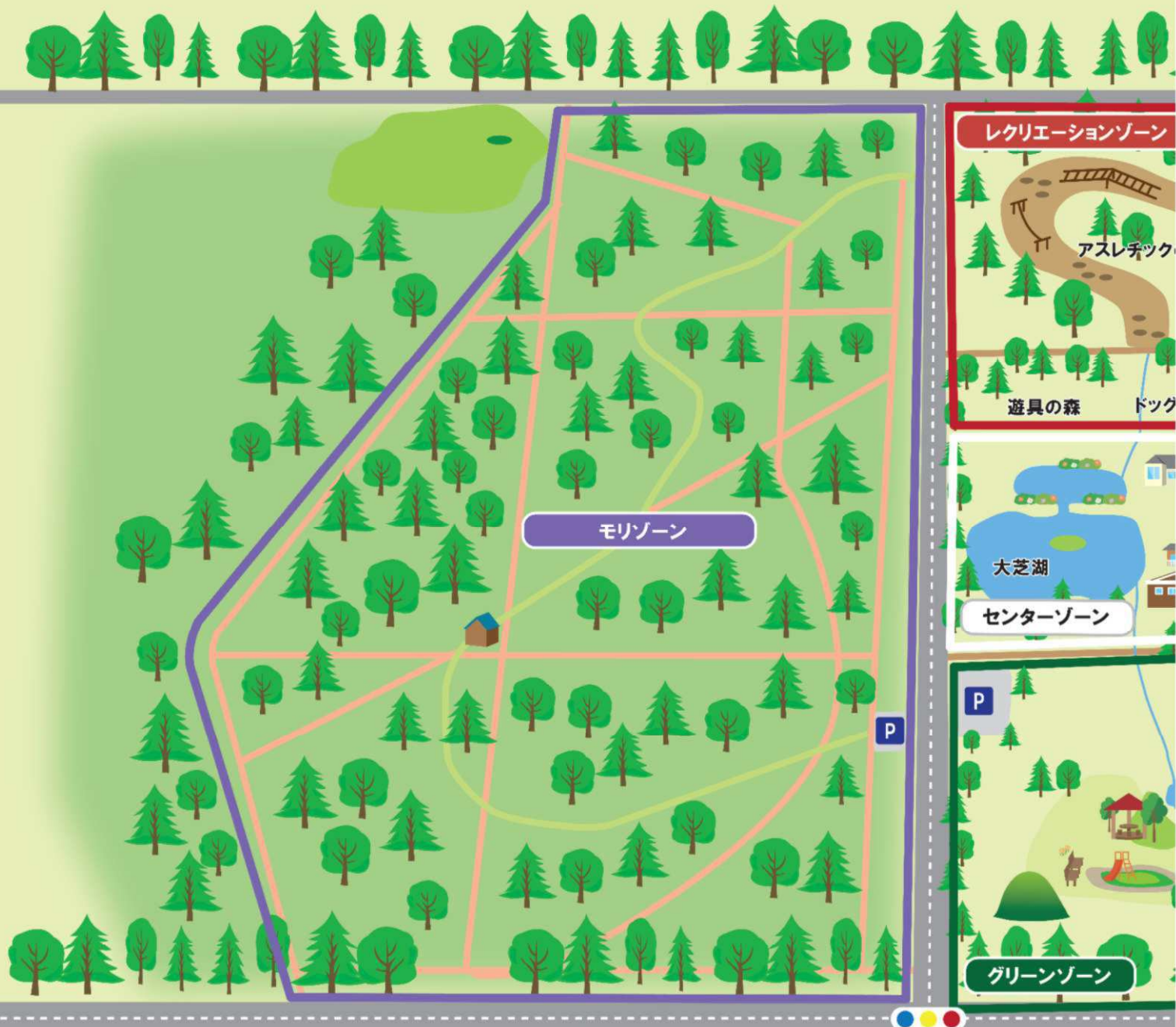
いつも



幅広い世代が楽しめる
 誰でも一日中遊べる
 自然の美しい 森の美しい
 今のまま変わらない
 近くて気軽に行ける憩いの場所
 大芝高原はいつも
 村の人たちと共にある
 そんな場所でありたいです

いやしの木
いままも





ゾーニング

大芝高原の広さは、都市公園大芝公園エリアとみんなの森のエリアをあわせると85ヘクタールもあります。(都市公園大芝公園エリアは東京ディズニーランド®と同じ広さ(51ヘクタール)です。)とても広いのでゾーンごとコンセプトを分けて利活用を考えました。

センターゾーン

センターゾーンは、交流や飲食、癒しを目的に、誰もが利用できる、多くの観光施設により形成されるゾーンです。

道の駅としての整備と大芝荘の利活用などが求められています。

グリーンゾーン

グリーンゾーンは、それぞれが思い思いに余暇を過ごすことを目的に、誰もが利用できる広い芝生地と水の広場で形成されるゾーンです。

水の広場の清浄と犬の排泄物対策などが求められています。

レクリエーションゾーン

レクリエーションゾーンは交流や健康増進を目的に、誰もが利用できるマレットゴルフ場やアスレチックコース、遊具により形成されるゾーンです。マレットゴルフ場の適正な運営とアスレチックコースおよび遊具の改修などが求められています。



10年後の 大芝高原未来図 大芝高原 将来ビジョン

村の皆さんのなかに、「大芝高原には行ったことがない」という方はいますか？

大芝高原には道の駅、温泉、テニスコートなどのスポーツ施設、癒しの森林セラピーロードなど、さまざまな施設があります。身近で誰もが気軽に利用できる森の公園、それが大芝高原です。

昭和47年にスポーツ公園としての開発が始まり、野球場や陸上競技場を整備し、その後芝生の広場、温泉、森林セラピーロードと、50年の間、少しずつ整備し、現在の公園になりました。

みんなの大芝高原を、10年後どうしていくのか。そのランドデザインを示す「大芝高原将来ビジョン」について、考え方をお伝えします。

村の公式キャラクターまっくんも最初は大芝高原のイメージキャラクターでした。



アウトドアゾーン

アウトドアゾーンは、癒しやレジャーを目的に、誰もが利用できるアウトドア施設や温泉施設により形成されるゾーンです。キャンプ需要に対応した改修と温泉施設の適正な維持管理などが求められています。

スポーツゾーン

スポーツゾーンは、交流や健康増進を目的に、地域住民が主に利用できる多くのスポーツ施設により形成されるゾーンです。施設の適正な維持管理と廃業施設の跡地の利活用などが求められています。

モリゾーン

モリゾーンは、癒しや健康増進を目的に、誰もが利用できる、森林セラピーロードにより形成されるゾーンです。松枯れによりアカマツが今後10年間で壊滅的な状況になる可能性を否定できないことから、用材として活用する発想の転換と樹種転換などが求められています。



センターゾーン

こんなゾーンに

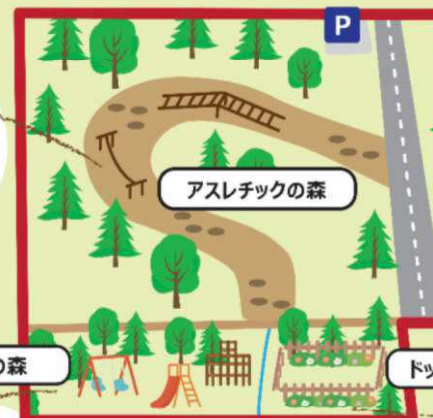
広い公園の真ん中にあるゾーンです。既存の施設（湖も含める）の有効活用につながる整備など、リニューアルをしていきます。

村に宿泊をする観光客が少なく、30年経過した大芝荘の利活用が課題となっています。適切な委託先が見つからない場合は、取り壊しも一つの選択肢として考えています。その場合、遊具やドックランの森、大芝湖へのアクセスを改善するため、跡地を駐車場にすることを検討していきます。



アスレチックの森

コースとして成り立つよう、アスレチックを追加していきます。整備にあたっては、大芝の間伐材を利用します。



遊具の森

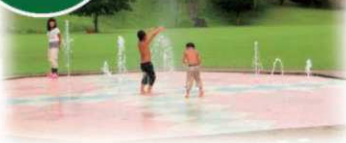
NEW

障がいのある子もない子も一緒になって安全に遊べる（インクルーシブ）大型遊具を設置し、多くの子どもたちが安全に遊べる広場を拡張整備することを検討していきます。アスレチックの森と導線をつなぐ形で整備するほか、車いすで通ることができる歩道の整備も行っていきます。



水の広場

NEW



現在の水の広場に噴水デッキなどの設置を検討していきます。

「大芝高原内に子どもたちが水と親しめる遊び場がほしい」という要望があります。



築山



遊具の撤去により、現在は、築山のみが存在しています。芝ソリの利用など、あまり費用をかけない形で活用を検討していきます。

グリーンゾーン

こんなゾーンに

広い芝生地で、家族、友人、あるいは一人でも思い思いに余暇を過ごしてもらえるゾーンにします。

このゾーンはペットを連れた人も、小さな子どもも利用しています。リードにつながれていない飼い犬がいたり、芝生内に糞が散見されたり、安全や衛生上の問題が起きています。そこで、人と犬がそれぞれ気持ちよく、安全に楽しく過ごせるように、レクリエーションゾーンにドッグランを新たに設置し、利用者の棲み分けを進めることで改善することを検討していきます。

レクリエーションゾーン

こんなゾーンに

林の中で、年代を問わず、体を使って思い切り遊べるゾーンにします。

今あるアスレチックなどの施設を拡充していきます。

ドッグランの森

NEW

人も犬も気持ちよく楽しく、安全に公園を利用できるようにするため、新たにドッグランの設置を検討していきます。他所のドッグランとの差別化を図るため、樹木の伐採は最低限とし、ドッグランの森として整備します。



マレットの森

村内外からの利用者が多い人気の施設です。引き続き、保守整備を行っていきます。

マレットゴルフは高齢者から子どもまで広く親しめるスポーツです。年間利用するシニア世代が子どもたちにマレットを教えるなど世代間交流のできるイベントを企画し、多くの人が楽しむことのできる施設へと整備していきます。



クランの森

マレットの森

アウトドアゾーン

こんなゾーンに

- 森の中に、キャンプ場やコテージが点在し、アウトドアが楽しめるゾーンです。一体的にアウトドアの森として整備を強化していきます。



大芝の湯

入場料を無料、温泉利用のみ有料とし、誰もがゆったりと過ごし、自由に過ごせる暖かい空間を提供していきます。入場しやすいように南西の林の駐車場整備を検討していきます。



オートキャンプ場

コロナ禍で密にならないレジャーとして、キャンプ需要が増えています。人気の施設ですが、設置から30年経過しており、今の利用者のニーズに合った施設への改修が必要です。人気のある「グランピング」ですが、大芝高原のオートキャンプ場は、基本的には、贅沢なイメージのグランピング施設を新たに設置するのではなく、流行が終わっても、変わらずキャンプを楽しむ、本物のアウトドア指向の利用客が、さらにリピーターとなるように、現施設の改修拡充整備を行っていきます。ただし、繁忙期は利用客のニーズに応えキッチンカーの配置、料理や食材、飲料の提供を行い収益増加につながるようなサービスの提供を検討していきます。

また、現在このゾーンで活用されていない場所をフリーキャンプサイトやキャンピングカーのキャンプサイトに整備して活用していきます。

ふれあいプラザ

大芝の湯に併設された温水歩行浴



プール施設です。インストラクターによる運動講座の実施など施設の周知に努め、利用促進を図るよう検討していきます。

森のコテージ・高原のコテージ

グランピングもできるコテージとしてサービスを充実して利用客の増加につなげていきます。



プールの跡地利用

プールの跡地にいくつかのスポーツ施設整備を検討しています。

スケートボードパーク

や

スケートボードは若者に人気のスポーツで、住民などを対象にしたアンケート調査でも、スケートボードのできる環境の整備を望む声が多くあります。

既存のプール施設の形状を大きく変えることなく設置できるスケートボードパークの整備を検討していきます。



体育館

など

トレーニングジム、学校交流拠点、カフェ、管理事務所が併設された複合的施設の体育館の整備を検討していきます。



スポーツゾーン

こんなゾーンに

経年劣化した施設を機能強化のためのリニューアルをし、運動公園としての大芝高原の魅力アップを図ります。

新しいスポーツや村が応援しているスポーツのための施設を新規に整備し、大芝高原の魅力アップを図ります。

野球場

バックネット、スコアボードの改修を検討していきます。



陸上競技場

芝生化を検討していきます。



バスケットボール3on3コート

道の駅駐車場と陸上競技場の間のデッドスペースを活用してバスケットボールのコートの整備を検討していきます。



テニスコート・多目的コート

クレイコート6面の人工芝化を検討していきます。



モリゾーン

こんなゾーンに

森林セラピーロード認定の森に適した森の整備を継続して行います。

他所にない、森を活用する癒しや健康増進のための仕組みづくりを進めます。

静寂のなかで、癒しを得られる森づくりを進めます。

誰もが一人でも安心してセラピーロードを利用できるよう、明るい森づくりを進めます。

みんなの森

みんなの森には、認定を受けた3コースのセラピーロードが整備されています。利用者は、この森の静寂を好んでいるので、新しく集客するための施設整備はしません。基本的には、森林セラピーロード認定基準に適した整備を継続して進めます。利用者の中には、「森のなかは怖い」という声もあることから、静かながら人の目を通る、間伐により、光が入って明るい森づくりを心掛けた整備を続けます。森林セラピーの癒し、病気の予防の効果はウォーキングだけではなく、森の中で過ごすことで現れるということです。赤松の小屋を中心に、ヨガのできるスペースや健康器具の設置など、ウォーキング以外でみんなの森を利用できる施設の整備を検討します。

また、利用者の方に、適正な施設整備をするための「セラピーロード整備維持費」などの協力金をお願いすることも検討します。



赤松の小屋



森のなかで寝転がってセラピー



植林

未来の子どもたちに、大芝の森の木をつないでいくために、村制150周年を記念とし、200周年に向けた植林を始めます。



大芝の森の130年

桃

十先生の説得や熱心な姿に、強く反対していた人たちもついにその大切さを理解し、一緒に植林をするようになりました。こうして植林した木は何万本にもなり、原っぱだった大芝は、大きな平地林になっていきました。



2

昭

和56年4月、大芝の村有林で火災が発生。焼失面積は9ヘクタール、17,000本もの木が燃えてしまいました。



3

再

びアカマツやヒノキの植林を開始。中学生も学校林作業を続け、大芝の森づくりは引き継がれていきました。



中学生の植林作業の様子

4

明

治28年 南箕輪尋常小学校(現南箕輪村小学校)に赴任した福澤桃十校長先生は、当時貧しかった村の、学校建設の資材のために必要な1万本のコナラの木を植林を始めました。これが大芝高原の森の始まりです。村の「まぐさば」※として大芝の原っぱを利用して村の人たちは、この植林に大反対しました。まぐさばがなくなると、田畑の肥料や、家畜の餌にしていた草を採れなくなるからでした。



※馬などの餌・田畑の肥料にする草を刈ることのできる共有の原っぱ

か

つて、植林された木は材木としてだけではなく、枝葉は薪としても利用されていました。薪を得るために村の人たちが入って大芝の森は自然と整備されていました。しかし、時代とともにエネルギーとしての薪が必要とされなくなりました。平成17年森林セラピーロードが整備され、今の大芝の森は、健康の森として活用されています。



5

大

芝の森の木は多くはアカマツです。村では、松くい虫被害を防ぐために平成18年から薬剤の樹幹注入を行ってアカマツの保全を行ってきましたが、平成29年に、ついに大芝の森の中に松くい虫被害が発生しました。



松枯れの広がるイメージ
資料提供：長野県林務部

樹幹注入もアカマツの生理的限界を迎えており、調査により、今後10年間で大芝の森のアカマツは壊滅的な状況になることもわかりました。

6

松くい虫被害が広がるのを
待ってはられません。

先人の想いを引継ぎ
アカマツは用材として活用で
きるうちに伐採します。

大芝高原の森

ー50年の森林づくりへー

大芝の原野に植林を始めてから約130年の歳月がたった現在の大芝高原の森は、村木であるアカマツが上層を優占し、下層にはヒノキ、広葉樹、希少植物など豊かな自然を織りなす平地林となりました。なかには全国でも稀な100年以上の大径アカマツもあります。

大芝高原を訪れる利用者のニーズ※また大芝高原将来ビジョンアンケートなどでも、大規模な森林整備・改変は望まず、大芝高原の森をいつまでも残してほしいという声が大多数です。

森は、「森の恵み」「森の魅力」「森の力」など私たちにとってさまざまな価値がある存在です。100年以上かけて村民が植え、育て、守ってきた大芝高原のアカマツを最大限に有効利用しながら、村民の皆さんの共働による大芝高原の森林づくりが必要です。

※信州大学農学部「セラピーロード利用者アンケート調査」



アカマツの現況

村では平成18年度(2006年度)から薬剤の樹幹注入を行ってアカマツの保全に努めてきました。しかし、松枯れが平成29年(2017年)に発生し、今では、毎年100本以上のアカマツが枯損木となっています。

複数回の樹幹注入は、アカマツへの負担も大きく、多額の費用も要するため、令和元年度に中止しました。

現在のアカマツの衰退要因は、さまざまありますが、大芝高原が松くい虫被害の危険域(被害危険度MB指数の上昇※)であることと、アカマツ林の森林遷移が進行していることが大きく影響しているとされています。

このままでは、森林遷移がさらに進行し、最悪の場合は、今後10年以内にアカマツが衰退し、消滅する恐れがあります。

※MB指数とは

一年のうち平均気温が15℃以上の月について、平均気温から15を引いた値を合計したものであり、数値が低いほど寒冷、高いほど温暖な気候です。

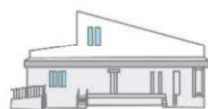
アカマツの利活用

現在、大芝高原のアカマツは約13,000本ですが、このまま松枯れが増えると、先人から受け継いだ財産の喪失、ひいては村の大きな損失になってしまいます。

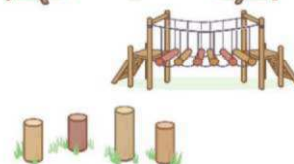
平成30年(2018年)に、アカマツについて用材利用を想定しランク付けを行ったところ、AA(上級)ランク5%、ABランクが21%、BAランクが10%、BBランクが24%、Cランクが29%、Dランクが6%、E(枯損)ランク5%の調査結果でしたが、近年の松枯れの影響でE(枯損)ランクが増大しています。

アカマツがただ衰退していくのを待つだけではなく、アカマツを用材などとして活用する発想の転換期にきています。

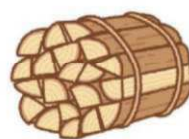
(具体的)



公共施設等の建築材、
木育(おもちゃ、はしなど)、



アスレチックなど遊具活用



薪、木炭、ウッドチップ利用



寺社仏閣の建築材

森林の循環

人の手によって『植える→育てる→収穫する』の
サイクルで適切に循環される森林は、半永久的につながっていきます。

大芝高原(みんなの森)利用者のニーズから、今後の方針を決定し整備を進めていきます。

○森林資源・資質を有効かつ最大限に
活用した森林空間のさらなる充実

○利用者ニーズを反映した親しみのある多様な
森林整備、環境づくり

○衰退が危惧されるアカマツ林から耐性
アカマツを含む他樹種への転換

○木材の最大有効活用

○希少植生など特徴的な大芝の自然環境の保護

○未来につなぐ森林づくり



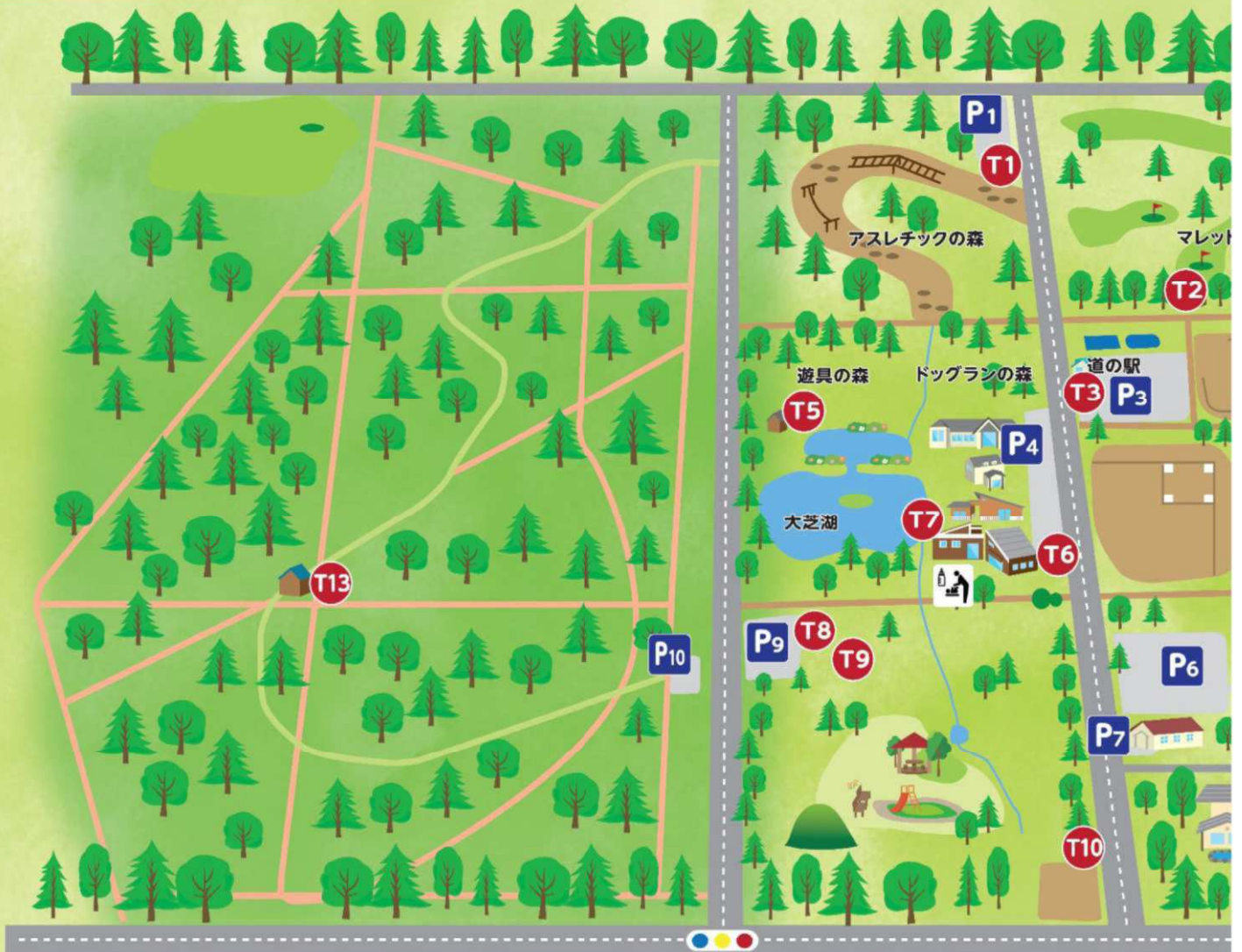
50年後に向けた 大芝高原の 森林づくりスタート

村は令和6年度(2025年度)に村制150周年を迎えます。この年を起点に200周年に向けて、50年の時を掛けながら、大芝高原の森林を再生する取り組みを展開していきます。伐採・植林計画、森林整備のゾーニング、植林樹種、維持管理など、関係機関(国、県、大学、林業等の関係者など)や、村森林協議会が連携して大芝高原森林づくり実施計画を策定します。また、企業やNPO法人、ボランティアや村民の皆さんが参加する共働の大芝高原の森林づくりをスタートします。

大芝高原の

大芝高原の利用者
誰もが利用する
駐車場・トイレなどの施設は

- ・自然景観に調和した施設配置を進めます。
- ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設



トイレ

公園全体のバリアフリー化のため、古いトイレの改修時には多目的トイレに改修していきます。グリーンゾーンの多目的広場内に子どもも利用できる多目的トイレの設置を検討します。



トイレ



多目的トイレ



オストメイト



授乳室

トイ レ 名		
T1		マレットゴルフ場南(冬季は閉鎖します)
T2		マレットゴルフ場東
T3		道の駅大芝高原
T4		野球場北
T5		大芝湖西南
T6		道の駅味工房A
T7		道の駅味工房B

駐車場&トイレ

の配置を進めます。



駐車場



駐車場

自然景観との調和に配慮しながら、適正な駐車場の増設を検討していきます。現在の施設対応型の配置では、増設に限界があるため、電子案内板などで駐車場の空き状況をアナウンスするなど、公園利用者を的確に誘導することにより駐車場を一元集中化する方法も検討していきます。

	駐 車 場 名	利用可能台数(台)
P1	マレットゴルフ場南 マレット利用者が利用しています。冬季は閉鎖します。	92
P2	マレットゴルフ場北側 いつも空いている穴場の駐車場です。	31
P3	道の駅大芝高原 大芝高原でイベントが重なると満車となる場合があります。	126 (うち大型10・障2)
P4	道の駅大芝高原(味工房) 電気自動車の急速充電器が設置されています。	97(うち障2)
P5	キャンプ場 キャンプ場利用者が利用しています。冬季は閉鎖します。	46
P6	屋内運動場西 大芝の湯の利用者が利用しますが、大芝の湯の建物まで距離があります。	128
P7	屋内運動場入口前	10(うち障2)
P8	ふれあい交流センター「大芝の湯」 林の中の駐車場で、斜度があり、大芝の湯の玄関までの距離があります。利便向上の要望があります。	37(うち障6)
P9	大芝湖東側 セラピーロード利用者が多く利用しています。時間によっては混雑し利用できない場合があります。	44
P10	みんなの森 時間によっては混雑し利用できない場合があります。	3(うち障3)

ト イ レ 名

T8	  	大芝湖東多目的
T9	 	大芝湖東
T10	 	小運動場西(冬季は閉鎖します。)
T11	 	オートキャンプ場内トイレA(冬季は閉鎖します。)
T12	 	オートキャンプ場内トイレB(冬季は閉鎖します。)
T13	 	赤松の小屋

看板

環境に調和した統一感のある看板を引き続き設置していきます。西部広域農道沿いの誘導看板については三風デザインの採用に努めます。

※三風デザインとは…伊那谷の美しい風景を未来世代に受け継ぐために地元の企業や自治体などが共同で作り上げたデザイン



参考資料

大芝高原に関するアンケート調査実施

大芝高原の将来ビジョンを作成するにあたり、住民等の皆さんからご意見をお伺いしました。

募集期間 令和3年9月1日～令和3年9月30日

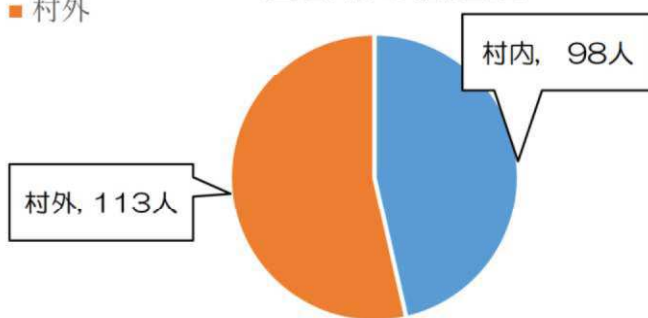
募集方法 広報みなみみのわとホームページにて周知し、アンケートボックス投函(大芝高原味工房、大芝の湯、役場)、電子申請にて回答

意見総数 211件

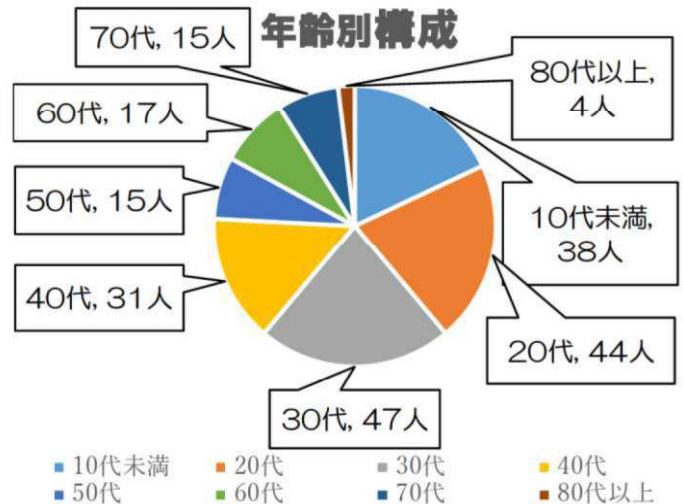
内訳の概要

■ 村内
■ 村外

回答者の居住地



年齢別構成



● 設問1 大芝高原にどんな遊具施設(遊具)があったらいいと思いますか

() は2票以上の記載があった数

釣り堀	(3)	水遊びのできる場所・噴水	(7)
小動物の動物園	(4)	昆虫食文化発信施設	
野球場の改修		防災広場(かまどベンチ・多目的東屋等)	
アスレチックの充実	(8)	防犯灯を増やす	
バスケットボールゴール・コート	(2)	文化施設	
ドックラン	(7)	テニスコートの人工芝化	(3)
スケートボードパーク	(88)	木のぬくもりが感じられる施設	
BMX	(6)	巨大迷路	
ステージ		卓球施設	
温水プール	(4)	ネットカフェ	
大型すべりだい	(2)	砂場	(2)
デイサービス施設		ボール遊びのできる施設	
スノーボード・ソリ場		サウナのみの施設	
ゴーカート	(2)	居酒屋	
遊園地		屋外用筋トレ器具設置	
森林浴しながら読書のできる場所		室内で遊べる施設	(5)
インクルーシブ(公園づくり・遊具)	(3)	体育館	(2)
陶芸や工作ができる施設	(2)	ハードのものはもういない	(3)

● 設問 2 大芝高原でやってみたいイベントはありますか

フリーマーケット	夏休み昆虫採集
イルミネーションを長期間実施	小中高校大学生のキャンプ
自転車レース	全国グルメフェス
クラフト展	音楽フェス
野外映画上映	火育（焚火体験など）
凧揚げ大会（冬のイベント）	スケートボード教室
道の駅で購入できるものの大食い大会	フォレストウェディング
湖上落語会	ナイトウォーク（夜の大芝探検）

● 設問 3 10年後の大芝高原はどのようになっていたら良いとお考えですか

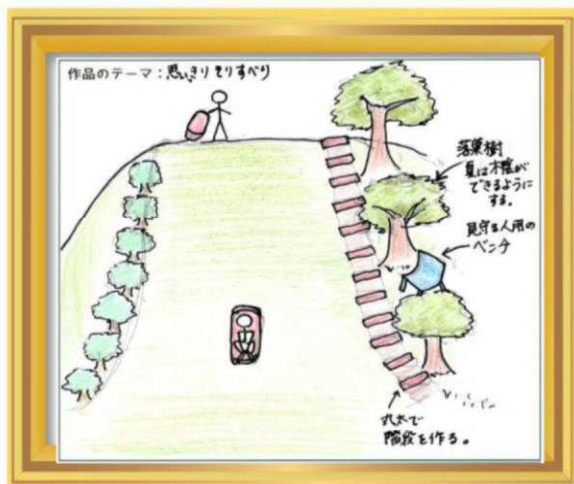
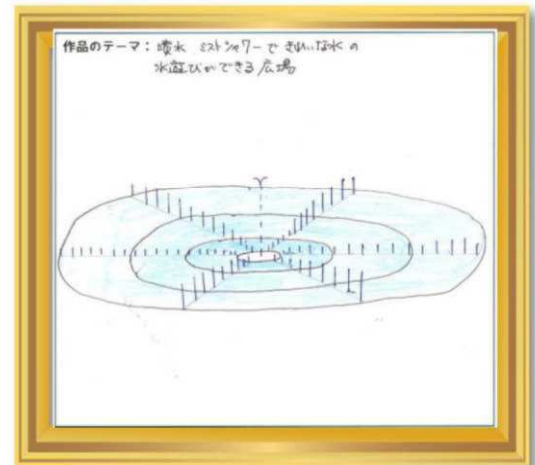
（ ）は2票以上の記載があった数

いろいろな人が使える場所、スポーツ公園
家族連れで、手軽に、誰でも、一日中遊べる環境（8）
自然を保つ、今のまま緑の多い場所（9）
このままでいてほしい。いい公園です。（15）
大芝湖の外来種（ミシシippアカミミガメ）の駆除
運動施設の利用料が高い、手続きが面倒なので改善してほしい
心のオアシスになってほしい、癒し空間（2）
道の駅らしい作りになってほしい。地元のグッズの販売
子どもだけでなく、高齢者も楽しめる場所、若者男女楽しめる場所（17）
松の木も、小鳥、虫、野草も残していきたい
若者から年寄りまで他市町村民より楽しめる場所。まずは村民を大切に
味工場の施設拡大
昔から受け継いだ大芝高原の良さや思い出を残しつつ、今の時代に合った村の観光地
今以上に自然の美しいところであるように
小学生から高校生が使える施設があると、もっと人が集まると思うのでこれからもどんどん増やして多くの人が楽しめる場所になってほしい
今は若い人が多くても、いずれ高齢化する。目先を見ず長い目で見て進めてほしい。10年はあっという間
誰でも遊べるインクルーシブな公園があり、自然ゆたかな高原でいてほしい
出会いの場として、人があふれかえる
県外からたくさんの方が集まる場所（2）
大芝スケボーパークで練習した子どもたちがオリンピックに出場する（3）
涼しく過ごしやすい場所なので、幅広い施設ができ充実して一日過ごせる場所になってほしい
遊具以外の体を動かせる施設が欲しい
自然がたくさんあっていろんな遊びができる楽しい場所
スケートボードパークとして有名なスポット スケボーが常にできる場所（5）
お金をかけずに子どもたちが遊べる場所、子供向けのイベントを多くする（2）
四季によって大きなイベントを開催し、観光客が訪れる場所
10年後は温暖化が進んでいると思うから、暑さ対策、障がい者も利用できる優しいつくりの公園にしてほしい。自然災害時に避難所となる作りが必要
近場でも十分楽しめる場所
村民や村出身者が村を離れても将来思い出に残るような場所であったほしい（小・中・高校・大学の行事で積極的に利用してほしい
冬がさみしい印象なので、冬に人が集まる仕掛けづくりが必要
大芝高原の松くい被害が進んできているので、施設よりも植生の多様化を目指してほしい。

あつまれ！大芝の森 コンテスト

多くの世代から、大芝高原に関する自由で独創的なアイデアや想いを集めることを目的に「あつまれ！大芝の森コンテスト」を実施しました。大芝高原将来ビジョンにもアイデアのいくつかを取り込んでいきます。

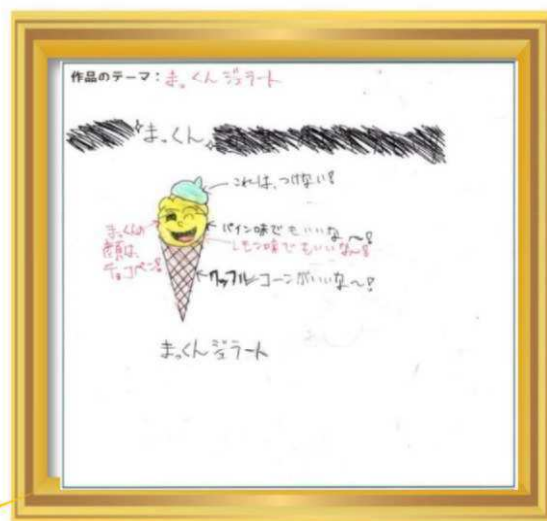
きれいな水で子どもたちが遊べる場所があればいいな。



築山を利用してソリ滑りして遊びたい



大きな遊具があれば楽しい



まっくんジェラートあったらいいな

バスケットゴールほしいな



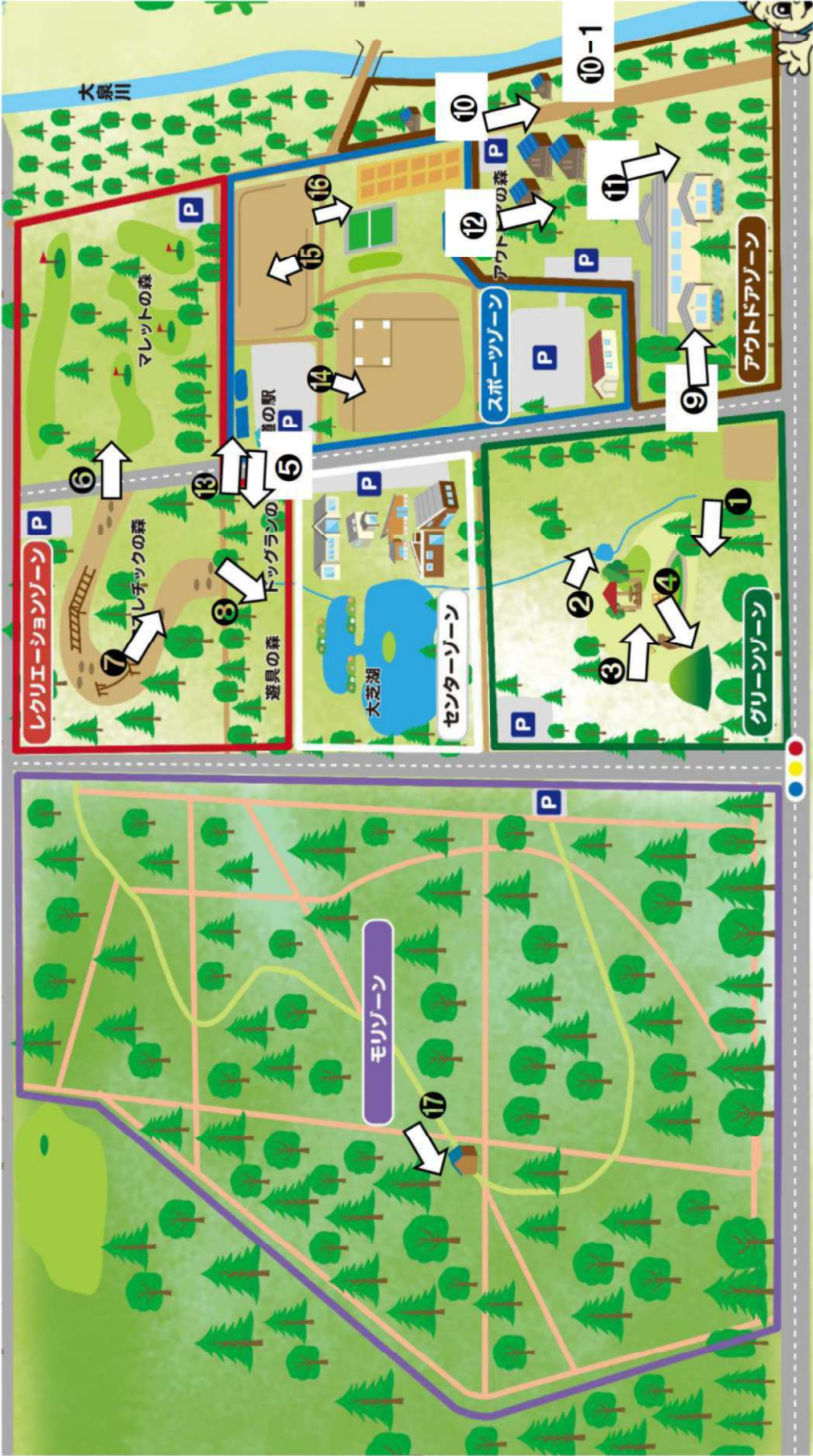
大芝には犬がたくさんいるからドッグラン作ってほしい。



木に囲まれた「緑陰カフェ」でお茶したり本を読んだりできたら、毎日通います。でも、犬が苦手なので、犬がいると帰ります。ドッグランをつくってほしい。



大芝高原写真資料



①	芝生の広場	⑥	マレットの森	⑪	ふれあいプラザ	⑬	テニスコート・多目的コート
②	水の広場	⑦	アスレチックの森	⑫	森のコテージ・高原のコテージ	⑭	みんなの森 (赤松の小屋)
③	東屋	⑧	遊具の森	⑬	プールの跡地		
④	築山	⑨	大芝の湯	⑭	野球場		
⑤	ドックランの森	⑩	オートキャンプ場	⑮	陸上競技場		
							1

グリーンゾーン

(芝生の広場)



①

(水の広場)

「大芝高原内に子どもたちが水と親しめる遊び場がほしい」という要望があります。



②

広い芝生で家族連れなどが思い思いに過ごしています。弁当を食べている人も、犬の散歩をしている人もいます。

レクリエーションゾーン

(ドックランの森)

ドックランを公園内に設置することにより、人と犬の棲み分けをし、誰もが気持ちよく楽しく、安全に公園を利用できるようにします。他所のドックランとの差別化を図るため、樹木の伐採を最低限とし、ドックランの森として整備します。



⑤

ドックラン予定地(北東から)

フール
跡地



ドックラン予定地(東から)

⑥

(マレットの森)

村内外から利用者が多い人気の施設です。引き続き、保守整備して利用していきます。



(築山)

過去にすべり台として利用していましたが、現在は、築山のみとなっています。



④

東屋を中心に、犬を連れ人のコミュニケーションが自然に発生しています。



③

(アスレチックの森)

経年劣化により遊具の一部を撤去しています。コースとして成り立つようアスレチックを追加していきます。整備にあたっては、大芝の間伐材を利用します。



No.8～No.10は撤去されていて、300mほど遊具がなにもない状態です。

大型遊具設置予定地(西側から)

障がいのある子どもも一緒に遊べる大型遊具を設置し、多くの子どもたちが安全に遊べる広場を拡張整備することを検討しています。アスレチックの森と動線をつなぐ形整備するよう検討しています。

アウトドアゾーン

(大芝の湯)

入場料を無料、温泉利用のみ有料とし、誰もがゆったりと自由に過ごせる暖かい空間を提供していきます。入場しやすいように南西の林の駐車場整備を検討していきます。



南側から見た外観

(オートキャンプ場)

人気の施設ですが、設置から30年経過しており、今の利用者ニーズにあった施設の改修を検討しています。質的なイメージのグランピングテント施設を設置するのではなく、現施設の改修拡充整備をしていきます。現在、このゾーン内で活用されていない場所をフリーキャンプサイトやキャンピングカーキャンプサイトに整備して活用していきます。



オートキャンプ場



旧キャンプ場 大泉川脇 空地

(ふれあいプラザ)

大芝の湯に併設された温歩行浴プール施設です。施設の周知に努め、利用促進を図るよう検討していきます。



西側から見た外観

(森のコテージ5棟・高原のコテージ2棟)
グランピングもできるコテージとしてサービス充実して利用客の増加につなげていきます。



12

森のコテージ



12

高原のコテージ：移住お試し住宅としても活用

スポーツゾーン

(プールの跡地利用)
プールの跡地にいくつものスポーツ施設整備を検討しています。

13



(スケートボードパーク)
既存のプール施設の形状を大きく変えることなく設置できるスケートボードパークの設置を検討しています。

(体育館)
VC長野のホーム体育館確保のため、企業版ふるさと納税を財源として体育館の整備を検討しています。

(野球場)
バックネット・スコアボードの改修を検討していきます。



14

スコアボード

(陸上競技場)
イベント時に臨時駐車場として利用するときの雨天の場合に問題を抱えていて、駐車場としても利用できる芝生化など検討します。



15

(テニスコート・多目的コート)
クレイコート6面の人工芝化を検討します。



16

多目的コート



クレイコート

モリゾーン

(みんなの森)

みんなの森の利用者は、この森の静寂を好んでいるので、基本的には森林セラピーロード認定基準に適した従前の整備を継続して進めます。
森林セラピーの癒し、病気の予防効果はウォーキングだけでなく、森の中で過ごすことで現れるということです。赤松の小屋を中心に、ヨガのできるスペースや健康器具の設置などの整備を検討します。



赤松の小屋



赤松の小屋南側空地



健康器具 例